

景 気 動 向 調 査

(第 158 回)

2010 年 4 月 ~ 6 月期実績

2010 年 7 月 ~ 9 月期予測

株式会社 北日本銀行

経 営 企 画 部

目 次

調査要領	1
概 況	2
1. 県内景況感について	4
2. 業況について		
(1) 売上高または出荷高	5
(2) 生産高または仕入高	6
(3) 在 庫	7
(4) 収 益	8
(5) 販売価格・仕入価格	9
3. 設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	10
(2) 設備投資の目的	11
4. 資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	12
(2) 現金・預金	13
(3) 金融機関借入	13
(4) 販売代金回収期間	14
(5) 仕入代金決済期間	14
5. 経営上の問題点について	15

調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

記

- 1．実施時期 2010年6月下旬～2010年7月上旬
- 2．調査対象期間 2010年4月～6月期実績
 2010年7月～9月期予測
- 3．調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
- 4．対象先 岩手県内企業400社
- 5．回答数 231通（回答率 57.75 %）
 <内訳> 製造業80社 建設業51社 卸・小売業100社
- 6．調査の主要項目 (1) 業況について
 (2) 設備投資の動向について
 (3) 資金繰りの状況について
 (4) 当面する経営上の問題点について

以 上

【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

(注) 「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

概 況

～ 緩やかな持ち直しの動き続く ～

2010年4～6月期の岩手県内企業の景況感D Iは、全体で 62.1 と前期（1～3月期） 70.7 より 8.6 ポイント上昇し、2009年4～6月期以降 5期続けて上向いている。全体的な景況感は、厳しい状況下でありながら、緩やかな持ち直しの動きが続いている。

D I（景気動向指数）推移

全業種ベース	1～3月期実績	4～6月期実績	7～9月期見通し
景況感	70.7	62.1	44.7
売上高・出荷高	34.5	26.5	11.3
収益	29.6	27.1	20.8
販売価格	31.8	25.9	19.1
仕入価格	5.0	8.5	6.3
資金繰り	21.2	14.6	19.6

国内経済をみると、公共投資は総じて低調に推移しているものの、個人消費は経済対策の効果や消費者マインドの改善の動きもあって持ち直している。設備投資は下げ止まっており、住宅投資も基調的に持ち直しつつある。輸出は緩やかに増加し、生産が持ち直しており、企業の業況感は引続き改善している。総体としての景気動向は海外経済の改善や緊急経済対策をはじめとする各種政策効果などを背景に、緩やかに回復しつつある。

一方、岩手県内経済をみると、鉱工業生産は緩やかな持ち直しの動きが続いており、公共投資は前年並みの水準となっている。また、有効求人倍率が低水準ながらも、雇用情勢は改善に向けた動きがみられる。半面、住宅建設は前年を下回っており、設備投資も減少する見通しにあり、個人消費は一部に動きがみられるものの弱い動きが続いている。総体としての岩手県内景気動向は厳しい状況にあるものの、引続き緩やかな持ち直しの動きがみられる。

< 参考 >

岩手県内企業「景況感D I」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感D I
1	第 153 回	09年1～3月	92.7
2	第 152 回	08年10～12月	91.3
3	第 124 回	01年10～12月	91.2
4	第 109 回	98年1～3月	90.6
5	第 111 回	98年7～9月	90.0

（1971（昭和46）年以降）

1. 県内景況感について

全体のDIは、前期比8.6ポイント上昇して62.1となり、昨年4～6月期以降5期連続して上向きとなっている。

各業種別のDIをみると、製造業が12.1ポイント、建設業が6.6ポイント、卸・小売業が7.9ポイント上昇している。7～9月期見通しでは、製造業が13.9ポイント、建設業が13.5ポイント、卸・小売業が22.2ポイントと、各業種とも上昇する見通しとなっている。

2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

DIは、全体では8ポイント上昇している。業種別では、製造業が9.6ポイント、卸・小売業が11.6ポイント上昇しているが、建設業が3.2ポイント低下している。

(2) 生産高または仕入高

製造業の生産高は7.5ポイント上昇し、前期に引続き上向いている。卸・小売業の仕入高も12.1ポイント上昇している。

(3) 在庫

製造業の製品在庫は横ばいとなり、卸・小売業の商品在庫は上向いている。

(4) 収益

製造業、建設業、卸・小売業はいずれも上向いている。

(5) 販売価格・仕入価格

販売価格、仕入価格ともに上向いている。仕入価格は7期ぶりにプラス局面に達している。

3. 設備投資の動向について

全体でみると、設備投資を「実施した」企業はほぼ横ばいで推移している。業種別では、製造業、卸・小売業が下向いている。

また、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、「生産・販売能力の増加」が2位、「経営の多角化」が3位となっている。

4. 資金繰り状況について

製造業、建設業、卸・小売業はいずれも上向いている。

5. 経営上の問題点について

各業種とも「売上・受注不振」、「収益不振」、「過当競争」、「販売価格安」が上位を占めている。

1. 県内景況感について

～ 各業種の実績上向く ～

〔4～6月期の実績〕 県内の景況感（前年同期比）についてみると、全業種では「良い」と答えた企業が6.5%（前期5.9%）、「悪い」が68.6%（同76.6%）で、DIは62.1（同 70.7）と、8.6ポイント上向いている。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が37.3（同 49.4）、建設業が78.8（同 85.4）、卸・小売業が72.7（同 80.6）となっている。各業種で上向いており、製造業は12.1ポイント上昇している。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が11%、「悪くなる」が55.7%であることから、DIは44.7となり、4～6月期実績と比較すると上向く見通しとなっている。

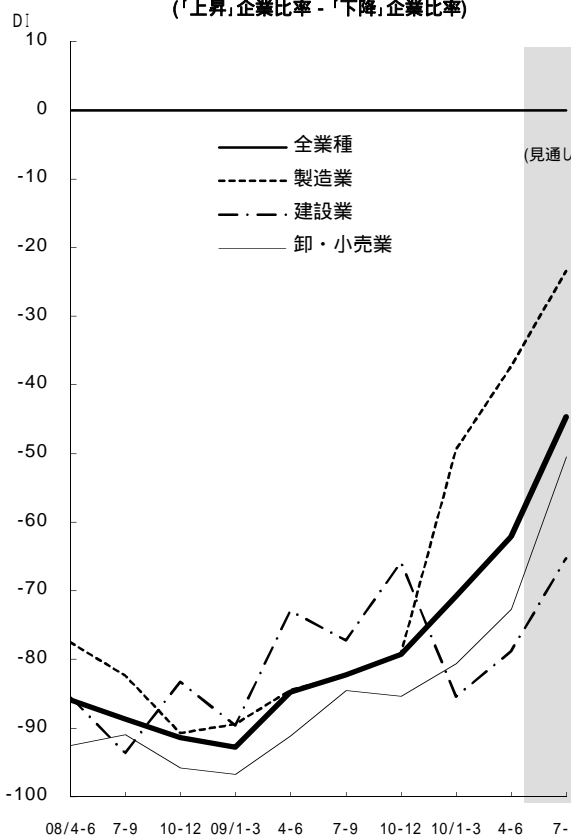
業種別にみると、製造業が23.4、建設業が65.3、卸・小売業が50.5となっており、各業種とも上向く見通しとなっている。

県内景況感(前年同期比)

		(%)					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	4～6月 (実績)	1.3	5.2	24.9	38.9	29.7	-62.1
	7～9月 (見通し)	0.9	10.1	33.3	38.2	17.5	-44.7
(製造業)	4～6月 (実績)	3.8	11.5	32.1	28.2	24.4	-37.3
	7～9月 (見通し)	2.6	15.6	40.2	31.2	10.4	-23.4
(建設業)	4～6月 (実績)	0.0	1.9	17.4	44.2	36.5	-78.8
	7～9月 (見通し)	0.0	5.8	23.1	44.2	26.9	-65.3
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	0.0	2.0	23.3	44.4	30.3	-72.7
	7～9月 (見通し)	0.0	8.1	33.3	40.4	18.2	-50.5

県内景況感(前年同期比)

(「上昇」企業比率・「下降」企業比率)



2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

～ 強まる製造業の見通し ～

[4～6月期の実績] 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が26.8%(前期24.0%)、「減少」が53.3%(同58.5%)となり、DIは26.5(同34.5)と8ポイント上昇し、5期続けて上向きとなっている。

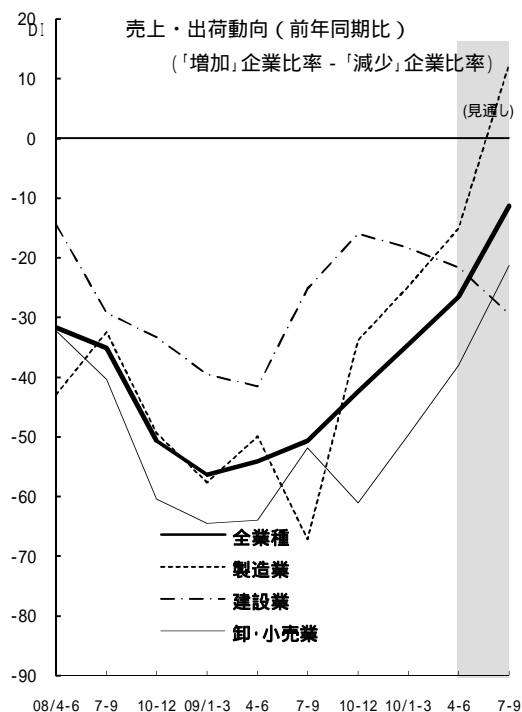
業種別にDIをみると、製造業15.1(前期24.7)、建設業21.6(同18.4)、卸・小売業38.0(同49.6)となっており、建設業は下向いているが、製造業、卸・小売業は上向いている。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が29.3%、「減少」が40.6%であることから、DIは11.3で、4～6月期実績と比較して15.2ポイント上向き見通しとなっている。

業種別にDIをみると、製造業で12.5、建設業で29.4、卸・小売業で21.3となっており、4～6月期実績と比較して建設業のみ下向き、製造業、卸・小売業は上向き見通しとなっている。製造業は2年6か月ぶりに水面下を脱する見通しが示されている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月(実績)	9.5	17.3	19.9	35.1	18.2	-26.5
	7～9月(見通し)	5.7	23.6	30.1	32.3	8.3	-11.3
(製造業)	4～6月(実績)	15.0	15.0	24.9	28.8	16.3	-15.1
	7～9月(見通し)	10.1	31.6	29.1	24.1	5.1	12.5
(建設業)	4～6月(実績)	7.8	21.6	19.6	23.5	27.5	-21.6
	7～9月(見通し)	3.9	19.6	23.6	33.3	19.6	-29.4
(卸・小売業)	4～6月(実績)	6.0	17.0	16.0	46.0	15.0	-38.0
	7～9月(見通し)	3.0	19.2	34.3	38.4	5.1	-21.3



(2) 生産高または仕入高

～ 製造業の生産高、上向き持続 ～

[4～6月期の実績] 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、製造業（生産高）では「増加」と答えた企業が31.3%（前期28.3%）、「減少」が42.6%（同47.1%）で、DIは 11.3（同 18.8）と7.5ポイント上向いている。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は21%（前期17.7%）、「減少」が55.7%（同64.5%）で、DIは 34.7（同 46.8）と12.1ポイント上向いている。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、製造業（生産高）については、「増加」と答えた企業が36.7%、「減少」が29.2%であることから、DIは 7.5で、4～6月期実績と比較して18.8ポイント上向き、プラス局面となる見通しである。

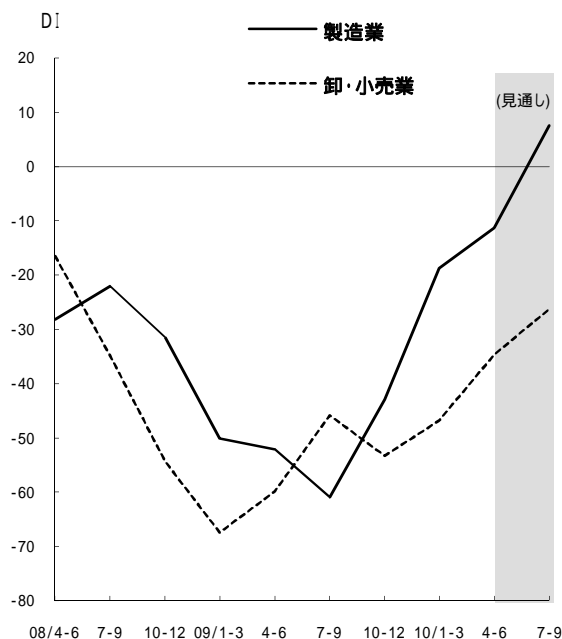
卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が18.9%、「減少」が45.2%であることから、DIは 26.3となり、4～6月期実績と比較して8.4ポイント上向き見通しとなっている。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
(製造業)	4～6月 (実績)	11.3	20.0	26.1	26.3	16.3	-11.3
	7～9月 (見通し)	8.9	27.8	34.1	24.1	5.1	7.5
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	8.4	12.6	23.3	38.9	16.8	-34.7
	7～9月 (見通し)	4.2	14.7	35.9	38.9	6.3	-26.3

生産・仕入動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(3) 在庫

～ 在庫水準の適正割合上向く ～

[4～6月期の実績] 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は14.3%（前期17.1%）、「減少」が39%（同41.4%）であることから、DIは24.7（同24.3）となった。また、原材料在庫水準については、「過大」が11.6%（同7.9%）、「適正」が81.2%（同77.7%）、「不足」が7.2%（同14.4%）である。

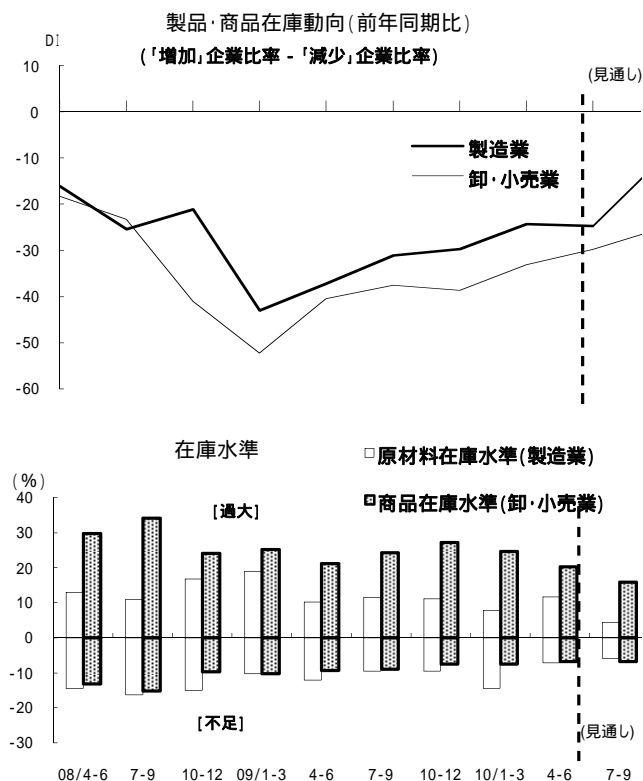
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が12.1%（前期9.0%）、「減少」41.8%（同42.0%）であることから、DIは29.7（同33.0）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が20.4%（同24.8%）、「適正」が72.8%（同67.7%）、「不足」が6.8%（同7.5%）である。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が10.5%、「減少」が21%で、DIは10.5となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が4.4%、「適正」が89.7%、「不足」が5.9%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が8.8%、「減少」が34.1%であることから、DIは25.3となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が16%、「適正」が77.2%、「不足」が6.8%である。

製品・商品在庫（前年同期比）

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
（製造業）	4～6月 （実績）	3.9	10.4	46.7	31.2	7.8	-24.7
	7～9月 （見通し）	2.6	7.9	68.5	18.4	2.6	-10.5
（卸・小売業）	4～6月 （実績）	1.1	11.0	46.1	31.9	9.9	-29.7
	7～9月 （見通し）	0.0	8.8	57.1	28.6	5.5	-25.3



(4) 収 益

～ 下向く建設業の見通し ～

[4～6月期の実績] 収益動向実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が22.7%(前期25.0%)、「減少」が49.8%(同54.6%)であり、D Iは 27.1(同 29.6)となり2.5ポイント上向いている。

業種別にD Iをみると、製造業 15.0(前期 20.3)、建設業 26.0(同 26.6)、卸・小売業 37.4(同 38.4)と、各業種で上向いており、特に、製造業の上昇幅が大きい。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が21.5%、「減少」とみる企業が42.3%であることから、D Iは 20.8で、4～6月期実績と比較して6.3ポイント上向く見通しとなっている。

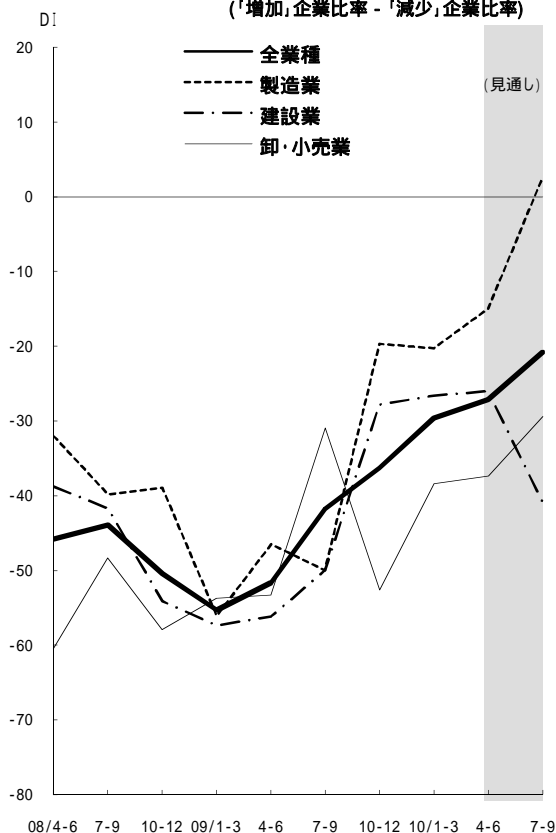
業種別にD Iをみると、製造業2.6、建設業 40.8、卸・小売業 29.4で、4～6月期実績と比較して、建設業は下向き、製造業、卸・小売業は上向く見通しとなっている。

収 益(前年同期比)

		D I (%)					D I
期	増加	やや増	不変	やや減	減少		
全業種	4～6月(実績)	5.2	17.5	27.5	31.0	18.8	-27.1
	7～9月(見通し)	4.8	16.7	36.2	30.0	12.3	-20.8
(製造業)	4～6月(実績)	10.0	21.3	22.4	26.3	20.0	-15.0
	7～9月(見通し)	8.9	24.1	36.6	19.0	11.4	2.6
(建設業)	4～6月(実績)	2.0	16.0	38.0	26.0	18.0	-26.0
	7～9月(見通し)	4.1	10.2	30.6	34.7	20.4	-40.8
(卸・小売業)	4～6月(実績)	3.0	15.2	26.2	37.4	18.2	-37.4
	7～9月(見通し)	2.0	14.1	38.4	36.4	9.1	-29.4

収益動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(5) 販売価格・仕入価格

～ 仕入価格プラス局面へ ～

[4～6月期の実績] 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が7.5%（前期6.2%）、「低下」が33.4%（同38.0%）であることから、DIは25.9（同 31.8）と上向いている。

仕入価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が22.7%（前期16.7%）、「低下」が14.2%（同21.7%）であることから、DIは8.5（同 5.0）と大幅に上向いている。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が8.6%、「低下」とみる企業が27.7%であることから、DIは 19.1で、4～6月期実績と比較して上向く見通しとなっている。

仕入価格については、「上昇」とみる企業が21.3%、「低下」とみる企業が15%であることからDIは6.3となり、4～6月期実績と比較して下向く見通しとなっている。

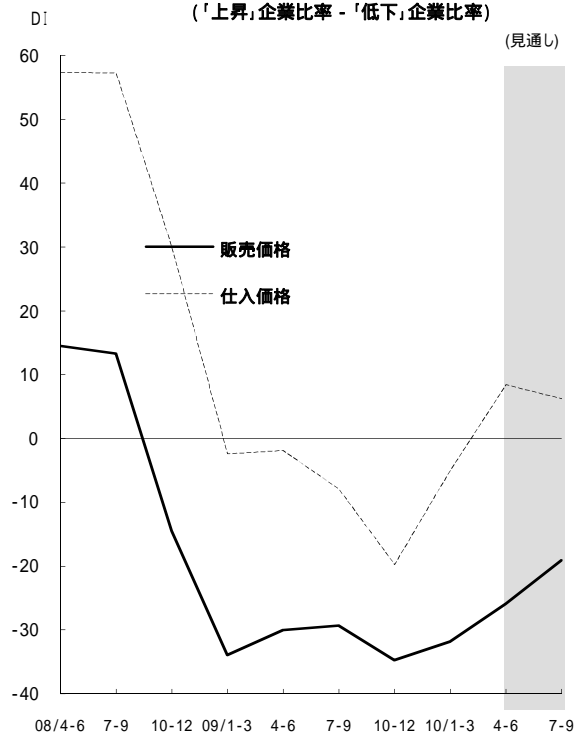
販売価格(前年同期比)

		(%)					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	4～6月 (実績)	0.4	7.1	59.1	27.6	5.8	-25.9
	7～9月 (見通し)	0.0	8.6	63.7	23.2	4.5	-19.1

仕入価格(前年同期比)

		(%)					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	4～6月 (実績)	2.7	20.0	63.1	12.4	1.8	8.5
	7～9月 (見通し)	2.7	18.6	63.7	13.2	1.8	6.3

価格動向(前年同期比)
(「上昇」企業比率 - 「低下」企業比率)



3.設備投資の動向について

(1) 設備投資の実施状況

～ 実施状況ほぼ横ばい ～

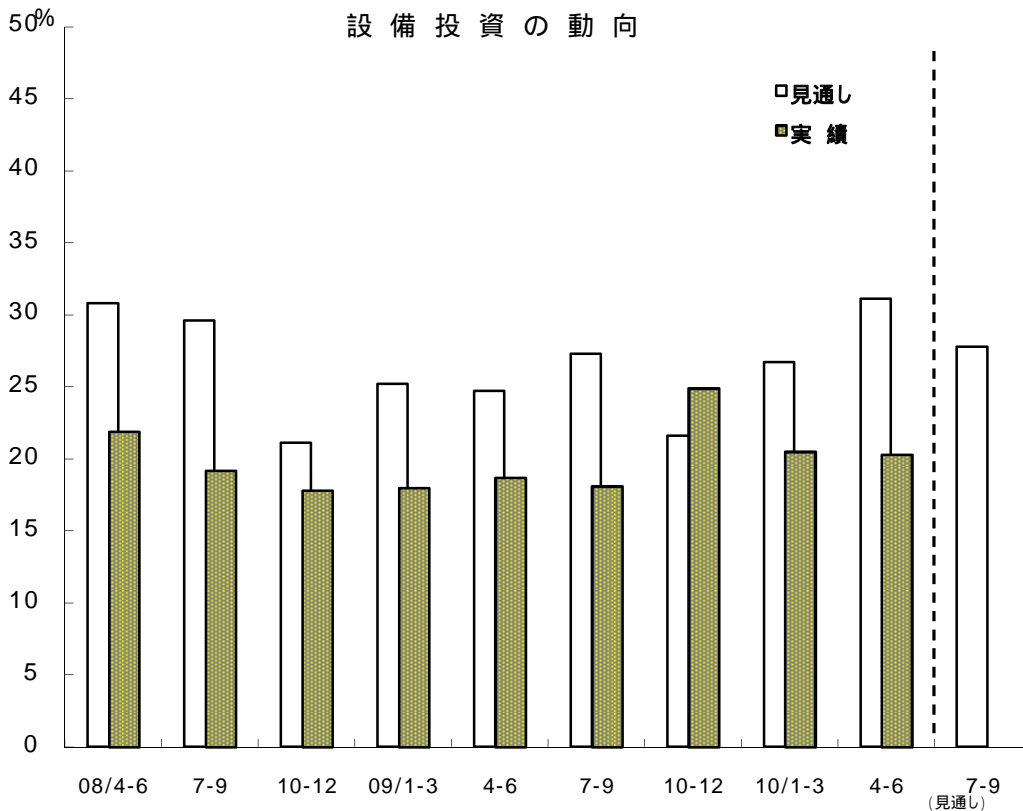
[4～6月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は20.3%（前期20.5%）で、ほぼ横ばいとなっている。

これを業種別にみると、建設業が18.8%（前期14.3%）と上向いており、製造業19.2%（同20.5%）、卸・小売業は22.0%（同23.3%）と下向いている。

[7～9月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で13.5%（前期16.6%）、「計画はあるが具体化していない」は14.3%（同14.5%）、「計画はない」は72.2%（同68.9%）であった。

「計画あり」は合計27.8%（同31.1%）と前期予想を下回る見通しとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で38.6%（前期37%）、建設業で8.1%（同18.8%）、卸・小売業で29.3%（同32.1%）の見通しとなっている。



(2) 設備投資の目的

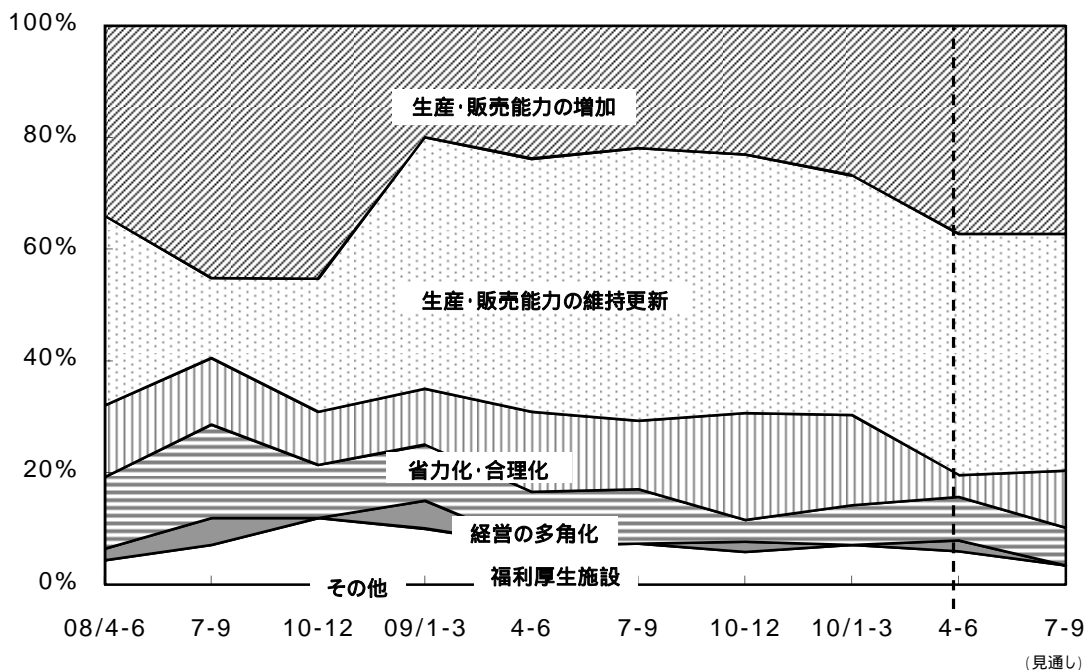
[4～6月期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(20.3%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が43.1%(前期42.9%)でトップとなり、「生産・販売能力の増加」が37.3%(同26.8%)で2位、「経営の多角化」が7.8%(同7.1%)で3位となっている。

業種別にみると、全業種で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、製造業、建設業では「生産・販売能力の増加」が2位となっているが、卸・小売業では「生産・販売能力の増加」がトップとなっている。

[7～9月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(27.8%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が42.4%でトップとなり、以下、「生産・販売能力の増加」37.3%、「省力化・合理化」10.2%、「経営の多角化」6.8%の順となっている。

業種別では、卸・小売業では「生産能力の維持更新」がトップとなっているが、建設業では「経営の多角化」がトップとなっている。製造業では「生産・販売能力の増加」と「生産・販売能力の維持更新」が同率トップとなっている。

設備投資の目的



4. 資金繰り状況について

(1) 資金繰り状況

～ 各業種とも改善 ～

[4～6月期の実績] 資金繰り状況(前期比)は、全業種では、「楽になった」とする企業が14.8%(前期12.8%)、「苦しくなった」が29.4%(同34.0%)であることから、D Iは 14.6(同 21.2)と上向いている。

業種別にD Iをみると、製造業が 8.7(前期 14.1)、建設業が 11.8(同 28.6)、卸・小売業が 21.0(同 23.3)といずれも上向いている。

[7～9月期の見通し] 7～9月期の見通し(当期比)をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が10.8%、「苦しくなる」が30.4%で、D Iは 19.6となり、4～6月期実績と比較して、下向く見通しとなっている。

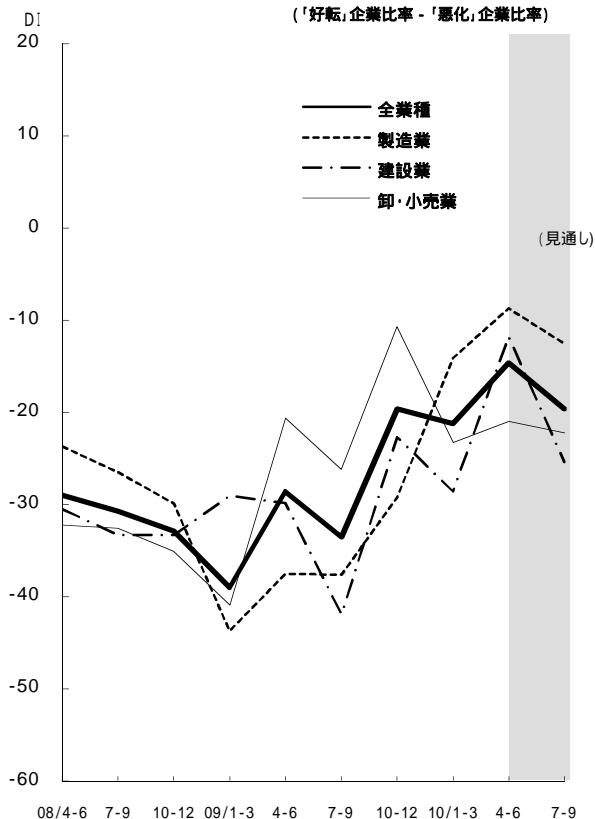
業種別にD Iをみると、製造業 12.5、建設業 25.4、卸・小売業 22.2となっており、4～6月期実績と比較して、いずれも下向く見通しとなっている。

資金繰り(前期比)

		(%)						
		楽	やや楽	不変	やや苦	苦	D I	
全業種	4～6月(実績)	3.5	11.3	55.8	21.6	7.8	-14.6	
	7～9月(見通し)	1.7	9.1	58.8	21.3	9.1	-19.6	
(製造業)	4～6月(実績)	3.8	16.3	51.1	23.8	5.0	-8.7	
	7～9月(見通し)	2.5	10.0	62.5	20.0	5.0	-12.5	
(建設業)	4～6月(実績)	0.0	15.7	56.8	15.7	11.8	-11.8	
	7～9月(見通し)	0.0	11.8	51.0	19.6	17.6	-25.4	
(卸・小売業)	4～6月(実績)	5.0	5.0	59.0	23.0	8.0	-21.0	
	7～9月(見通し)	2.0	7.1	59.6	23.2	8.1	-22.2	

資金繰り動向(前期比)

(「好転,企業比率 - 「悪化,企業比率」)



(2) 現金・預金

[4~6月期の実績] 現金・預金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が12.6%（前期15.8%）、「減少した」が37.1%（同44.0%）であることから、DIは 24.5（同 28.2）と上向いている。

[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が8.0%、「減少する」が36.1%であることから、DIは 28.1（当期 24.5）と下向く見通しとなっている。

(3) 金融機関借入

[4~6月期の実績] 金融機関借入金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が16.9%（前期23.5%）、「減少した」が29.8%（同24.8%）であることから、DIは 12.9（同 1.3）と下向いている。

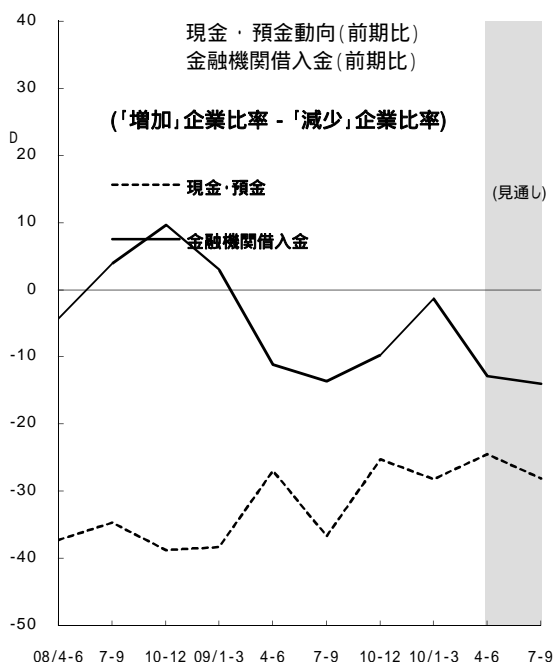
[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が11.8%、「減少する」が25.8%であることから、DIは 14.0（当期 12.9）と下向く見通しとなっている。

現金・預金(前期比)

		（％）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	4~6月 (実績)	2.6	10.0	50.3	27.1	10.0	-24.5
	7~9月 (見通し)	1.8	6.2	55.9	26.4	9.7	-28.1

金融機関借入金(前期比)

		（％）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	4~6月 (実績)	3.6	13.3	53.3	25.8	4.0	-12.9
	7~9月 (見通し)	4.1	7.7	62.4	24.4	1.4	-14.0



(4) 販売代金回収期間

[4~6月期の実績] 販売代金回収期間(前期比)については、「短くなった」とする企業が3.0%(前期2.5%)、「長くなった」が12.8%(同13.8%)であることから、DIは 9.8(同 11.3)となった。また、84.2%(同83.7%)の企業は「変わらない」としている。

[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「短くなる」とみる企業が2.2%、「長くなる」が12.3%であることから、DIは 10.1(当期 9.8)となる。また、85.5%の企業は「変わらない」とみている。

(5) 仕入代金決済期間

[4~6月期の実績] 仕入代金決済期間(前期比)については、「長くなった」とする企業が2.1%(前期2.5%)、「短くなった」が2.6%(同5.0%)であることから、DIは 0.5(同 2.5)となった。また、95.3%(同92.5%)の企業は「変わらない」としている。

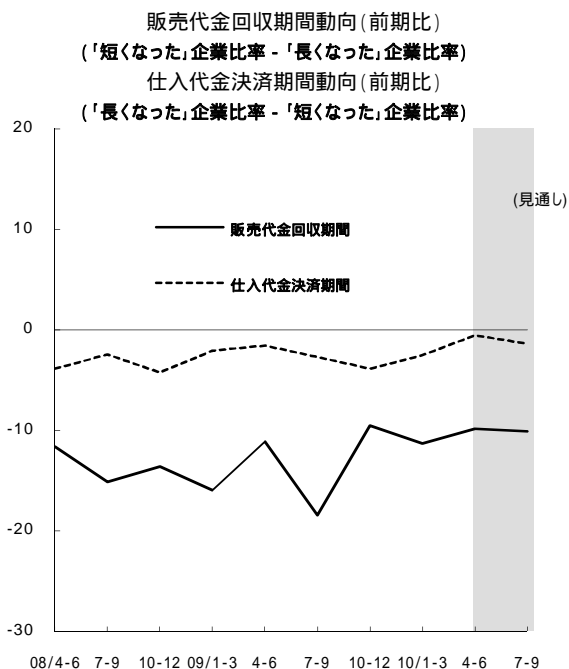
[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「長くなる」とみる企業が2.2%、「短くなる」が3.5%であることから、DIは 1.3(当期 0.5)となる。また、94.3%の企業は「変わらない」とみている。

販売代金回収期間(前期比)

		(%)					DI
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	4~6月 (実績)	0.4	2.6	84.2	11.0	1.8	-9.8
	7~9月 (見通し)	0.4	1.8	85.5	10.5	1.8	-10.1

仕入代金決済期間(前期比)

		(%)					DI
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	4~6月 (実績)	0.4	1.7	95.3	0.9	1.7	-0.5
	7~9月 (見通し)	0.4	1.8	94.3	2.2	1.3	-1.3



5. 経営上の問題点について

～ 「過当競争」、「原材料・仕入価格高」比率伸ばす ～

4～6月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」33.4%（前期35.7%）、「過当競争」17.3%（同15.0%）、「収益不振」16.6%（同17.2%）、「販売価格安」12.6%（同13.8%）、「原材料・仕入価格高」6.1%（同4.2%）の順となり、「過当競争」と「収益不振」の順位が入れ替わっている。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「受注不振」33.3%（同35.2%）が8期連続でトップとなり、「収益不振」15.6%、「販売価格安」10.6%の順になっている。建設業では「受注不振」32.6%（同35.4%）がトップとなり、「過当競争」27.4%、「収益不振」16.8%の順となっている。卸・小売業では「売上不振」34.6%（同37.0%）、「過当競争」18.7%、「収益不振」17.0%の順となっている。

いずれの業種も「売上・受注不振」、「収益不振」、「過当競争」、「販売価格安」が上位を占めている。

